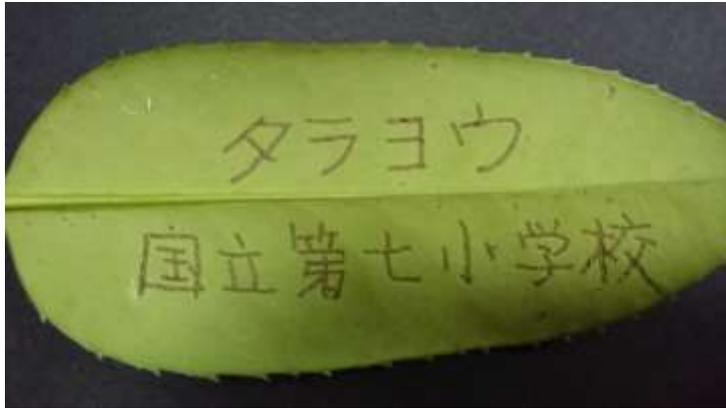


# 花ちゃん、オー君、モンタ博士、フツ博士のくわくわくド探立てくら

国立市立国立第七小学校

平成30年1月26日 NO.92 (492)



オー君 「あれあれ？また何か4年生がやっていますね。」

花ちゃん 「この前のシロダモの葉っぱは実験の続きですね。」

モンタ博士 「そうだね。その前に、ここでちょっと復習だけど、木の種類について、お勉強したことを思い出してほしいのさ。」

花ちゃん 「木には、いつも葉っぱをつけている常緑樹と、秋に葉っぱを落とす落葉樹があるということですね。」

モンタ博士 「そうだね。シロダモも1年中葉っぱを木につけているので常緑樹だね。」

オー君 「でも、不思議だな。その葉っぱはずうっとつけているのかな。」

モンタ博士 「いい質問だね。常緑樹がいつ葉っぱを落とすかという、特に決まっていないけど、春に葉を落とす木が多いかな。それから、常緑樹の1枚の葉っぱは、2年～5年も寿命のものがたくさんあるんだよ。」

花ちゃん 「なるほど、そういうことですか。ところで、手に持っている葉は何ですか。」

モンタ博士「これはね、『タラヨウ』という木の葉っぱだよ。シロダモと同じように、不思議な手品みたいな理科実験ができるんだ。おもしろいよ。」

オー君 「どうやるのですか。教えてください。」

モンタ博士「そんなの簡単だよ。葉の裏を釘できずつけてごらん。黒く浮き出てくるよ。」

オー君 「よし！花ちゃん。やってみよう。さあ！葉っぱと釘は用意したぞ。」

花ちゃん 「あ！おもしろい！文字が黒くなりますね。」

オー君 「文字だけじゃつままないから、絵も描くぞ。」

モンタ博士「どんどんやっごらん。楽しんでごらん。昔は、こうやって厚い葉っぱをけずって文字を書いたんだろうね。『葉書』というのはこれが語源だね。」

花ちゃん 「なるほど、そういうことですか。でも、今は葉書には使えませんね。」

モンタ博士「ところがどっこい。このタラヨウの葉に住所と名前を書いて、郵便切手をはると、ちゃんと届くんだよ。モンタ博士はもらったことがあるんだ。」

オー君 「へえー。おもしろそうですね。ぼくもやってみようかな。」

モンタ博士「どんどんやっごらん。ためしてごらん。花ちゃんとオー君で、タラヨウの葉書を出しっこしたら楽しいかもね。」

オー君 「そうですね。花ちゃん！やろう。」

花ちゃん 「やりましょう。でも、切手はいくらはればいいのか。どこにはればいいのか。」

モンタ博士「そうだね。それは郵便局の人に聞いてからやっごらん。」

花ちゃん 「そうですね。そうします。」

モンタ博士「ところで、このタラヨウの葉はね、もう一つおもしろい不思議な手品みたいな理科実験ができるんだよ。」

オー君 「ほんとうですか。どうやるのですか。わくわくドキドキです。」

モンタ博士「これは、ろうそくやおせんこうを使うから、大人といっしょにやらないといけないんだ。シロダモの葉の裏をろうそくにかざしてごらん。少しすると色が変化する。それから、おせんこうの火を近づけると丸い黒い輪ができるよ。」

※上の実験の理由は、加熱により酸化酵素が動くためと言われている。このような現象はモチノキ科の植物によく見られるものである。

※タラヨウの葉っぱ実験動画→